

## 文豪は、遠くに在りて想うもの。

M「ここ数年、トライやるウィークに来てくれた子たちに『好きな本は？』って聞くと、教科書に載っていない文豪作品を挙げることもあるのよね」

S「某マンガの影響ですね」

M「それはいいのだけれど、いろいろすっごく誤解されている気がする。」

S「何にせよ、読まないよりは読んだほうがいいです」

M「まあね。私は、受験での面接のためにしか文豪作品読まなかった。しかも、教科書にあるもの。夏目漱石とか」

F「定番ですね」

M「今回の名作コーナーも『吾輩は猫である』を取りあげただけけれど、今さらあらすじを紹介するものでもないのよね」

F「夏目漱石って、実は犬のほうが好きだったらいいですよ」

M「そうなの！？やっぱり猫は悪いことしかないからかしらね。」(←注:個人的見解です。)

S「そんなことないですよ(きぱっ)」

M「え～、犬のほうがおりこうさんじゃない」(←注:あくまで、個人的見解です。Mさんは猫も飼っています)

S「そんなことはありません。うちの子はいい子です(きぱっ)」

M「Sさん、猫飼ってるからって……もー、脱線してるわよ！ Fさん、今回の司会なんだからちゃんと進行しなさい」

F「あー、えっと、テーマに『文豪の中で友達にするなら誰？』ってあげたんですけど、考えたら、誰も嫌だなんて思ってしまった……」

M&S「あー……」

S「友達が主人公の名前が自分と一緒にだからと谷崎を読んだら、ショック受けてました」

M「谷崎潤一郎作品は、なかなかハードよね」

S「YA世代に薦めていいものか迷いますよね……」

F「『細雪』はオッケーだと思います」

M「そうなの？ちゃんと読んだことないわ～って、そろそろ時間じゃない。脱線ばかりしてたけど、Fさんちゃんとまとめられるの！？」

F「まとめます。ただ……」

S「ただ？」

F「文豪特集でまじめなお題なのに、ためになる話一つもできていません」

M「大丈夫。誰も期待していないから」(←注:個人的見解です。)



ブログやってるよ！ <http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/>→

# ほんだらけ

2020.10.1

## 文豪 GOGO パラダイス！

M「さあ、私たちも満を持して文豪について特集するわよ！」

F「ついに……！」 S「ついに……というか、今さら……？」

M「それは言わないお約束♪」

### 『あの文豪の素顔がわかる 文豪図鑑』

自由国民社 2016年刊 910.2/カイ



文豪は、見た目が十割、と言わんばかりの美麗イラストにあふれた文豪の図鑑。見ているだけで楽しめますが、ブームに乗った本だと馬鹿にしてはいけません。中身も充実しています。文豪が書いた作品解説はもちろん、驚くようなエピソードも短くまとめられていて、読み応え十分です。文豪作品に苦手意識を持っている人も、文豪作品を読んでみたいけれど何から読めばいいか迷っている人も、この本を入り口にして、お気に入りの一冊を見つけてください。

### ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のYA(ヤングアダルト)コーナーでご覧いただけます。

2か月に1度、年6回発行予定です。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。YAコーナーに用紙・ポストがございますので、おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

# 青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

テーマは、「関西」。古都・京都の古典作品から始まり、某人気倍返しドラマの原作に至るまで関西が舞台の作品はたくさん！

## 『初恋料理教室』

舞台は、京都の路地に佇む町家で開かれる「男子限定」の料理教室。様々な物語を抱え教室に通う生徒4人と、小さな教室を続ける愛子先生の思いが、それぞれの目線から語られる連作短編集です。会話に交じる京都方言や、京都らしい料理、そして落ち着いた町家の雰囲気やアクセントに、静かで心温まる物語が展開されます。ぜひ、ご一読を！

P.N. 西 浩一 (高校2年生)



藤野 恵美:著  
F/フジ  
ポプラ社 2014年

## 「こんな本、棚から見つけました」のコーナー

このコーナーでは、スタッフが棚を見て“再発見”をした本を紹介します

### 『北欧式 お金と経済がわかる本 12歳から考えたい9つのこと』

グンヒル J・エクルンド著 梶谷 玲子訳 2019年刊 翔泳社

北欧（ノルウェー）と日本の違いを比較しながら、お金を稼ぐということ、借りること、税金、経済などについて、9つの項目に分けてやさしく解説した本です。ノルウェーでは13歳になるとアルバイトができて、15歳の少年がタラの舌を切り落とす仕事で日本円で170万円近く稼いだそう！本書は、カラーでお洒落なイラストも載っており、学校で学べないようなお金と経済の基本的な仕組みや知識が楽しく学べます。



330/19



## 新着図書 Pick Up

### 『ぼくの「自学ノート」』 梅田明日佳:著 2020年刊 小学館



379.7/20

はて「自学ノート」とは？新聞の気になる記事を切り取ってノートに貼り、調べたことや感想を書きこんでいく。著者の梅田さんは、そんなノートを小学3年から高校生の今まで続けてなんと27冊！切り抜く記事も書く感想も自由。不思議に思ったらとことん調べて、気がつく自学ノートをきっかけに、たくさんの人たちとつながりができていました。感じたことを言葉にして書き留めるだけでも十分楽しい。これは勉強じゃなくて、自分の好きなことをやっているだけ。ノートの文字がそう言っています。

## YA世代のために血を吐く思いで名作を紹介するコーナー 『吾輩は猫である』

夏目漱石:著 2016年刊 海王社文庫(朗読CD付き)

吾輩は猫である。名前はまだない。

文豪特集の号に載せる文豪の名作…。ここはもう夏目先生にお出まじいただくしかありません！猫の視点から世の中を見つめた、風刺なのかコメディなのか読み方はまさにあなた次第！けれど、この本を改めて読み返すと、有名な冒頭文にふと疑問が。「名前はまだない」。決して子猫とは思えない主人公の猫のこのつぶやき。「まだ」ないということは、この先いつか名前がもらえることを期待していますよね。苦沙弥先生！どうして名前つけてあげないの！つけてあげて～。



F/ナツ